

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第84号(201607)

発行 竹田 幸男



ふれあいフェスタへの参加

市民活動センターでは7月9日(土)にふれあいフェスタを開催され、市民活動センターを拠点に活動する団体が多数参加して、4階会場と1階ピロティーで舞台出演・パネル展示、制作体験など多彩な活動発表が行われました。

寝屋川市映像協会では、ロッカールームで「映像の編集・撮影何でも相談」を開催、会員も多数参加して編集の実技について質問を行い、またとっておきの編集ノウハウ「目からウロコ」に聞き入り、実技能力を高めて頂きました。

例会の窓

平成28年6月例会

日時：6月15日(水) 13:30

場所：市民活動センター4F こども部屋

出席者：天野 新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田
谷 吉岡地区委員

欠席者：1名 (50音順・敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡事項

(1) 会報随想 妹尾さん

2. 協議事項

(1) 第4回文化連盟展の件

- ・平成28年7月31日(日)アルカスホールメインホールおよびスタジオ
- ・作品出品の依頼・旧作を集める。1作1,000円で人によっては2作も可。
- ・撮影担当と映写担当に分かれて参加をお願いする。
- ・アルカスホール 10時30分集合(午後の部担当の方は13:30集合)。

(2) 市民活動センターふれあいフェスタ(7月9日)への参加計画

- ・10:30~15:30の間「ビデオ撮影・編集何でも相談」
- ・相談員として竹田 新井氏参加お願い。
- ・13:00~14:00の間、講習会(研究会)
「ビデオ撮影・編集の 目からウロコ」

(3) 第1回 撮影会の結果

- ・関連して秋の撮影会に対する希望を求める。
- ・今回は「食事を楽しむ」も一つのテーマに。
案として 摂津峡 紅葉撮影

(4) 本年のアマチュア映像祭(10月30日決定)作品・出品希望は

- ・選出のため7月24日を 合同例会とする。

(5) 今年の市民文化祭出品作品を用意したい。9月例会で締め切る。

(10分以内)

3. 映写・研究発表

会員持参作品の映写

(1) 谷さん 「伊丹：荒牧バラ園」 4分

- ・BGMは「365日の紙飛行機」だったが、映像内容とBGMの曲想が合わないように思われます。こういう穏やかな風景にはゆったりしたピアノ曲やバイオリン曲などが合うのでは。

(2) 妹尾さん 「風にそよぐバラ」 10分

- ・同じく撮影会の作品。門扉の様など良い場面を撮られている。3-4分程度に纏められれば良い感じになるでしょう。最後の場面は入り口から中を見た構図になっていますが、園の中から門の方を見た構図があれば、と思いました。終わりの場面にはフェードアウト使ってみられては。

(3) 天野さん 「雨のハイキングと高山植物」

- ・第4回文化連盟展出品のため持参されたが、16対9の画面を表示する方法に本人からも疑問があったので映写した。この作品は4対3の画面の上下をカットして16対9の比率を確保しているため、画面の四方に黒画面が入り、

映像面積が小さくなっています。当時はやむを得なかったかも知れませんが損な方法です。

(4) 新井さん 「昆陽池：荒牧バラ園」 6分14秒

(5) 松愛会寝屋川支部「元気・元気の寝屋川」 25分

・これは同好会発足前の2001年の支部活動を有志で撮影した共同作品。この撮影が縁となって映像同好会が発足した記念の作品として参考映写した。

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等(略)

5. 来月の定例会 7/13(水) 13:30 市民会館 4F子ども室



地域社会へのお役立ち

妹尾 哲男

在職中は地域社会との関係は全て家内任せで、近隣との付き合いは殆どしないまま定年を迎えた。25年前の定年時に近隣の老人クラブから入会の誘いがあったが入会しないまま今日に至っている。

(1) 自治会活動.....数年前に自治会役員の当番が回ってきた。以前は家内にすべて任せてきたが、主役交代を意図して私自身が役割を分担することにした。毎月の役員会出席、回覧版の回布、地域イベントの世話などが主な任務である。昨今の近隣の課題は、高齢住民の逝去・老人ホーム入居が相次ぎ、その後に家族のだれかが継続して居住されることが期待されつつも、家庭の事情から空き家が多くなってきている。途端に雑草繁茂、庭木の徒長に加え、不審者の侵入などが懸念され、自治会会長と連携して相続人宛に書面で留守宅の庭木の伐採を要望し、部分的には改善されているものの基本的には未解決のまま推移している。

(2) 自宅周辺の美化.....在職中に何かの機会にN本部長から「自宅の庭木の手入れは適時・適切にすべきだ。庭木は家族だけの占有物ではなく、近隣の風景を形成するもので、近隣に住む人は勿論、通りすがりの人々にも楽しんでもらえるようにきちんと手入れして欲しい」と諭された。何故か強い共感を覚えて、その後は毎年秋に植木職人の手による剪定を続けている。

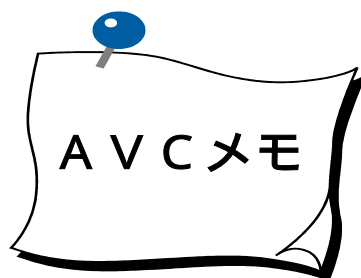
また、敷地内の除草、清掃に加えて敷地外の側溝の清掃にも努めている。地形上我が家の西北隅で暗渠に流れ込む構造になっているので、暗渠の入り口にごみ除去

用金網を設置し、大雨ごとに近隣から流れ込む落ち葉、通行人が捨てた吸殻、ペットボトル、空き缶、菓子袋などを回収してごみ回収日に排出している。また、強い水流で側溝にたまったヘドロを洗い流す圧力清掃も年に1、2回実施している。

宅地西側のバス道路の両側には幅広い歩道が整備され、向かい側に河津さくら、敷地側には黒金糯（くろがねもち）が街路樹として植えられた。当初は緑化が進むと喜んだが、常緑樹と安心していた黒金糯も4月ごろから盛んに大量の落葉を降らせ、その時期には清掃に追われる。

（3）道路の補修……宅地の前面の道幅の狭い市道は経年劣化でひび割れ、窪み（穴）が時折発生する。歩行者に危険な個所を見つけ次第、市役所に出向いたり電話で補修の依頼をする。昨今、市役所の対応は極めて早く、市役所に出向いて要望をして所を済ませて帰宅してみると、すでに道路がきれいに修復されていて驚いたこともあった。これは極端な例だが市役所の対応は全てにわたり、早く、かつ行き届いた対応がなされていると実感している。在職中は高額な住民税に強い不満を抱いていたが、それらがベースになって今日の市民サービスがあるのかな、と遅まきながら納得している。

一昔前のように地域住民が老若男女一致協力して地域の美化活動などに取り組むことは今日のように価値観が多様化した日本社会では実現は至難と思われる。若い人たちには子育て、産業発展・社会資本の充実などに専心してもらい、我々高齢者が各自の経験、知識、体力、時間を地域社会のために少しずつ拠出し合って、行政の負担をいささかでも軽減し、世界的に恵まれた日本の高齢者福祉制度を支えてくれている若い世代に対する感謝のしるしとしたい。



映像画面の縦横比・4対3から16対9へ（2）

竹田幸男

今回は主として映像画面の縦横比が変化していく経過をお話しましたが、その結果として映写する場で混乱が起こっていることについてお話ししたいと思います。テレビが横長画面になる前から映画は早くから横長画面でした。詳細は略しますが、それは、ブラウン管という表示装置に束縛されるテレビに対して、スクリーンというものが主体の映画は、早くから横長画面で表現を拡大できたものと思います。

ハイビジョン放送が始まる前からワイドテレビというものが出てきました。ブラウン管テレビですが16対9のワイド画面であって、かつ標準画質の映像再生用のテレビです。殆どワイド画面のテレビ放送のない中で、このテレビがとった方法は16対9の画面の中に4対3の映像を収めることでした。そのために本来の4対3の映像は4対3の縦横比のまま映写できると同時に、同じ映像を16対9の映像に変えて画面一杯に映写する、と言う方法でした。どうするかというと、画面中央

辺りは縦横比は正しく表示されますが、画面の左右に近づくにつれて映像の左右の幅を広げて映し、結果的に16対9の画面一杯に4対3の縦横比の映像を収める、と言うものでした。このために画面中央付近では人物の顔は正常に見えますが、左右に向かうに従い顔が横膨れになる、というおかしな状態になるのですが、16対9の映像が入ってきたときには、本来のまともな映像になります。当時は大まじめでこのようなテレビが販売されていました。切り替えは手動でも出来ますが、映像信号に画面切り替え用の信号が重畳されており、この信号によって画面の切り替えが自動でなされていました。したがって当時のテレビは4対3の縦横比で制作された映像はきちんと4対3の比率で見ることが出来ました。

やがてハイビジョン放送が始まり、地上デジタル放送が始まると、新しい放送内容は全て16対9の縦横比の画面で制作されており、画面切り替えの必要がなくなりました。このような放送を受信するテレビ側は縦横比の切り替えを自動する必要がなくなりました。テレビは入力された映像を全て横幅一杯まで広げて映写するものになっていきました。このようなテレビに旧来の4対3の映像信号を加えると、16対9の画面一杯に広げて映写するようになり、従来古い時代に制作した映像は顔が横に広がった横膨れの映像を映すようになりました。今まさに私たちが以前に作った4対3の縦横比の映像はこのような被害に見舞われています。視聴する人の多くはこのような現象を深く考えない人が多いようで、何となくおかしな映り方だが、はっきりとおかしいとは思っていないようです。でも、映像を作った側に見れば、正しい映像を見てもらっていない、と言う不満が残ります。

以前に作って、既に人様に差し上げたDVDなどでは、作者の知らないところで顔が横膨れしたおかしな映像が見られていることになります。一部のモニターやプロジェクターで縦横比の調整が出来るものがあり、このような機器を利用して、かつ知識のある人は正しい縦横比で映像が見られますが、そうでない場合は、何となくおかしな、と言うだけで見過ごされることになるのでしょうか。

そこで、自衛策として、以前に4対3の縦横比で制作した映像を16対9の画面の中に取り込んで、左右に黒く枠部分を作り、今のテレビでも、まともな縦横比で見られるように工夫できます。

ところが、4対3から19対9に完全に移行する前に作られた古い映像編集ソフトウェアには、このような作り方に対応出来ないものがあり、このような、16対9の画面の中に4対3の映像を取り込んで左右に黒く枠部分を作り、今のテレビでもまともな縦横比で見られるような工夫が出来ないものがあるので注意しましょう。



お願いこの会報をお読み頂いている方も多いと思います。今は読んで頂くだけの一方通行ですが、ご意見、ご感想などお寄せ頂ければ有難く思います。メールアドレスm-pic@outlook.jp(竹田)まで、ご連絡をお待ちしています。

寝屋川映像同好会 会員募集

当会では会員を募集しています。松愛会会員とご家族であれば、所属支部に関係なく入会して頂けます。

【活動内容】

■例会：日時：毎月第2水曜日 13：30～16：30

会場：寝屋川市民会館4階・市民活動センター

（寝屋川市秦町41-1 無料駐車場あり）

活動内容：各人の作品の映写と検討、映像制作上の質疑応答、活動の打ち合わせ等

撮影会：年2回程度

公開作品発表の機会：毎年11月・寝屋川市民文化祭・映像作品発表会

毎年10月頃 大阪アマチュア映像祭

2年に1回 映像同好会ビデオ作品発表会

2年に1回 寝屋川映像フェスティバル

懇親会：1月の例会前 新年食事会

12月 忘年会

その他随時研究会や講習会・レクリエーションなど開催

会費：入会金 3,000円 年会費3,000円

連絡先:メールアドレス m-pic@outlook.jp (竹田)